

Editor: Tom Toriyama, 6-14-11-205, Ohzenji-nishi, Asao-ku, Kawasaki, 215-0017 Tel 044-577-5231

ランチ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

8月12日(土) 1:30-4:00 講師 小杉 由美子

9月17日(日) 1:30-4:00 講師 小幡 正明

お問合せ: 担当 渋谷明美 047-351-8581 or
寺久保ヒロ子 03-3801-6139

4月から月1回のランチ・クラスとして行うことになりました。みなさん大勢のご参加を期待しています。

Book 53 講習会

8月19日(土) 1:15-4:40

杉並公会堂グランサロン (荻窪駅北口7分)

¥1,000

トム鳥山(講師)・青山るり(ピアノ)

Something in the Air、Chased Loversなどを講習

着替えのスペースがないので、それなりの服でご参加ください。時間有効活用のため、ウォームアップとストレッチはみなさんで済ませておいてください。会員でない方もどうぞ。

ランチ賞、小杉由美子さんに



2022年度の東京ランチ賞は小杉由美子さんに贈呈されました。小杉さんは1999年に大野悦子さん(2010年ランチ賞受賞)のもとでSCDを始められ、2005年セント・アンドルーズで指導者資格を取得しました。2003年に地元でSCDグループを立ち上げ、船橋市と周辺のダンス普及に他の指導者とともに積極的に貢献しています。2006年から東京ランチ委員会活動にも参画し、チェアマンを2年・セクレタリを6年務められました。2007年、当時のチェアマン大井富佐さんが急逝されたときには、会員の不安を払拭し、ふだんどおりのランチ活動をまとめあげたことは特筆されるべきです。

RSCDS 100周年記念ダンス会

—RSCDS 100th Anniversary Dance—

9月30日(土) 1:00-4:30

日暮里サニーホール(日暮里駅南改札口3分)

(アートホテル日暮里ラングウッド内)

¥2,000

大森ヒデノリ(フィドル)・小海弘子(ピアノ)

RSCDS 100年を記念し、この日、24 hours dancing around the world「世界中で24時間のダンシング」として全世界でダンス会が行われます。日本では3ランチ合同(主管は東京ランチ)で開催します。ランチレター#118で述べた中核の10ダンスに、日本3ランチが選んだ6ダンスを加えて行います。

RSCDS 会員以外の方もお誘いのうえ、ぜひご参加ください。

The Old Man of Storr	R32	Children
Pelorus Jack	J32	Book 41
Rakes of Glasgow	S32	Book 11
Farewell to Balfour Road	J96	Book 52
Shiftin' Bobbins	R32	30 Pop #2
Anna Holden's Strathspey	S32	Book 42
Ian Powrie's Farewell to Auchterarder	J128	30 Pop #2
None so Pretty	R40	Book 19
Triple Happiness	S32	Book 52
Ladies' Fancy	J32	Book 13
Scott Meikle	R32	Book 46
Hana Strathspey	S32	Tokyo 25th
Elsbeth Gray's Reel	R32	Book 53
Gothenburg's Welcome	J32	Book 37
Neidpath Castle	S32	Book 22
Flowers of Edinburgh	R32	Book 1

2022年度年次総会

6月25日(日)午後、東京都北区区民ホール(北赤羽)において25名の出席を得て、2022年度年次総会が開催され、質疑応答のあと2022年度の活動報告・決算報告ならびに2023年度の活動計画・予算が賛成多数で承認されました。くわしくは東京ランチ会報No.40をご覧ください。

ブランチ 40 周年記念ウィークエンド

2024 年 1 月 19 日 (金) – 21 日 (日)

鎌倉プリンスホテル (江ノ電七里ヶ浜駅 5 分)

講師: ジム・ストット

ミュージシャン: 大森ヒデノリ・小海弘子

来年は東京ブランチが生まれて 40 年、記念のウィーク
エンドを開催します。100 名予定、会費概算 5.5 万円。

1 月 19 日 (金) 午後 クラス
夜 ウェルカム・ダンス
1 月 20 日 (土) 午前 フリー (昼食は各自で)
午後 オブショナル&ワークスル・クラス
夜 記念ダンス会

1 月 21 日 (日) 午前 クラス・昼食後解散

ホテルはあいにく外装工事のため、部屋からの眺望は
よくありません。

フォーメーション・インデックス新版

『来週はビギナーズ・クラス・シリーズの 4 回目、2
カップルの set and link をリアルタイムでやりたいが、
RSCDS ダンスから何を選べばよいか?』。(答えは末尾)
そういうときに役立つのがフォーメーション・インデッ
クスである。たとえば、allemande、promenade、
tourn e、などのフォーメーション、turn、cast off、clap
などのムーブメントがどのダンスにあるかをまとめたも
のがこの Index to Formations and Movements である。
初めての発行は 1978 年のユージェニア・シャープ編集の
小冊子 (Book 27 までのダンスを収録) で、その後マリ
リン・ヒーリーが大幅な改変を行なった 2006 年版が出版
された。2006 年版はブランチでも紹介したが、大冊で値
段も ¥5,500 と高かったため、買う人はほとんどいなかった。

このほど 17 年ぶりに最新版インデックスがデジタル版
で発行された。

発行年	2023	2006
本の形式	デジタル版	紙版
収録ブック	Book 52 まで	Book 45 まで
総ページ数	247	166

本部インターネット・ページに登録されている人は、
My RSCDS→Member-only Contents→Index to
Formations and Movements→A4 サイズ (レターサイズ
は米国様式) でデジタル版 PDF を無料でダウンロードで
きるが、17MB とファイルサイズが大きいので注意した
ほうがよい。

ショートリストで 294 項目のフォーメーションから目
的のフォーメーションをクリックすると、そのフォーメ
ーションを含んだ全ダンスがロングリスト上に表れる。
さらに SCDDDB (Scottish Country Dance Database) と
SCDD (Scottish Country Dancing Dictionary) にリンクし
ているので、どういうダンス内容か、ダイアグラムやビ

デオですぐに確認できる。

117 ページ以降の第 2 部はどのダンスにどんなフォー
メーションがあるかのリストである。ABC 順に 12 Cates
Crescent から始まり最後の The Zoologist まで、合計 913
の RSCDS ダンスが記載されている。

本部はこれからもインデックスの修正、追加を適時行
ってゆくとのことである。新インデックスの作成予告か
ら 3 年かかって完成したわけで、本部関係者に感謝した
い。(答えは Le Moulin Rouge (Book 39) のみ。これをビ
ギナーズ・クラスに持ち込むのは適切でない)。

運営委員会報告

2023.5.3 (港区生涯学習センター。以下同じ)

- ・年次総会会場は細海修さんが 6 月 25 日・赤羽北ふれあ
い館を予約してくれ、ありがたい。総会資料は 5/19 に
会員に発送予定。総会后ダンス会行なうこととし、プ
ログラム、MC、CD 編集担当を決定。
- ・2023 年度会員数は 157 名で、前年度から 20 名減。本
部登録会員は 130 名。
- ・Book 53 ビデオ撮りは四街道市南部福祉センターで
5/30 に行なう。音楽は本部から送られたものを使い、
パートナーを固定して数回の事前練習が必要で、船橋
グループが中核となる。
- ・ブランチ 40 周年記念 Weekend 2024 の予定講師はジ
ム・ストット、ミュージシャンは小海弘子さん・大森
ヒデノリさんに都合を問合わせる。
- ・2004 年の New Year Dance は上記 Weekend 2004 と重
なるため実施しない。
- ・Book 53 のブックと CD 価格は本部価格不明である
が、経験値から予測して円価を算定する。

2023.6.2

- ・年次総会の資料は 5/19 に会員に発送した。
- ・2023 年度会員数は 1 名増えて 158 名。
- ・Book 53 ビデオ撮りは 5/30 に完了。ダンサー始めみな
さんに感謝。動画・静止画を早めに本部に送り、チェ
ックを受ける。→動画の品質が良くないため、改めて
撮り直しすることに。
- ・ブランチ・クラス会場について「サークル東中野」か
ら協力の意向あり。ありがたいことなので千代田区
の会場がとれないとき、お願いしたい。
- ・8/19 の Book 53 ダンス講習会の講師・会費を決定し
た。
- ・9/30 の 3 ブランチ合同ダンス会のチラシは東海ブラン
チの新セクレタリが決まり次第、会員に送付。わがブ
ランチの MC は次回委員会で決める。
- ・Weekend 2024、ジム・ストット、ミュージシャンから
から参加 OK の回答。「朝から深夜までダンシングばか
りでは体がもたない」人が多くなり、第 2 日午前・午
後はフリータイムで考える。ブランチ会員でない人
(他ブランチ・海外) も受け入れる。↩

- ・3 ブランチ合同の100周年ダンス会、各ブランチ分担金拠出、当日スタッフの交通費額などについて早めにわがブランチに連絡するよう他ブランチに依頼する。デザインも含めプログラム150部作製を受諾してくれるかTさんに問合わせる。東京ブランチのMCはチェアマン。
- ・Weekend 2024の2日目、午前はフリー、午後は雨天の場合を考えてオプション&ウォークスルー・クラスとする。10月に申込用紙を発送し、11月末締切りとする。会費は概算で5.5万円、会員特典ありとする。
- ・Book 53とCDの価格は、英国内のインフレ、ページ増、ポンド価の急な上昇、ダブルCD化によりもくろみを大幅に上回るようになった。大変申し訳ないが、申込みされた方に別途文書で追加のお支払いをお願いせざるを得ない。
- ・会報第40号、ブランチレター第123号、100周年記念ダンス会のチラシは7月21日に発送作業を行う。

5月4日	三木眞理			
	Kenilworth	24R	W Scott Bk	
	Linktown Strathspey	32S	Cullen	
	Sutherland Reel	40R	Book 29	
	Dragonflies	32S	Lataille	
6月12日	石田由美			
	Otters in Kenick Burn	32J	Landon	
	On Tour	32S	Paterson	
	The Dancing Man	32R	Goldring	
	Summer Wedding	40S	Downey	
7月10日	境 雅子			
	The New Ashludie Rant	32J	Henderson	
	Fiona Fair	32R	Skelton	
	Cuillins of Skye	32S	Leaflet 1978	
	The Fair Isle Stacs	32S	Imp Vol 1-3	

Book 53 の内容

いろいろな情報をまとめると、Book 53の内容が見えてきました。当初の本部の募集要項は、世に広く知られておらずその地域で踊られているダンス、ないし新しいダンスでした。4か月という短い募集期間で、各ブランチは本部への応募に苦慮し、既発行のブランチ・ブックから選択して本部に提出したものと思われます。Book 53の新ダンスはつぎのとおりで、わがブランチの Elspeth Gray's Reel などを除いては、SCD Database や Scottish Country Dancing Dictionary でダイヤグラム、ビデオ、録音有無が分かるものばかり、いわばほとんどのダンスが二番煎じで、だれも知らなかったまったくの新ダンスは極小という Book 53 です。サンフランシスコ・ブランチの Toast to the Mousies は、昨年のわがブランチのトライアルで1位、ブックに載せるべきとなった R-85 番のリールです。

	ブランチ	タイトル	リズム	ダイヤグラム	既発売 CD	ビデオ
1.	インターナショナル	Chased Lovers	J32 3C	あり	あり	あり
2.	オタワ	The Galloping Carousel	J32 4C	あり	あり	あり
3.	サンガブリエル・バレー	Niles Roberts' Farewell to Pasadena	J32 3C	あり	ナシ	あり
4.	サンフランシスコ	Toast to the Mousies	R32 3C	あり	あり	あり
5.	スカイ島	The Lochalsh Reel	R40 3C	あり	あり	あり
6.	スターリング	City of Stirling Reel	R32 3C	あり	あり	あり
7.	東京	Elspeth Gray's Reel	R32 3C	ナシ	ナシ	ナシ
8.	ヘレンズバラ	The Portincaple Oak	S32+R32	あり	ナシ	あり
9.	ベルファスト	The Orchards of Co Armagh	S32 3S	あり	あり	あり
10.	エジンバラ	The Water of Leith	S32 4C	あり	あり	あり
11.	北バージニア	The Falkirk Lass	S32 3C	あり	あり	あり
12.	ワシントン DC	Something in the Air	S32 2C	あり	ナシ	ナシ

さらに、2枚目のCDにはこれまで RSCDS 未出版でしたが、時の試練に耐え、愛され続けてきたつぎのダンスが「ゴールデン・オールディーズ」として Book 53 に加えられています。

	作者	タイトル	リズム	さらに、
1.	J・ボウイディクソン	The Luckenbooth Brooch	J32 3C	ダグラス・ヘンダーソンの
2.	ジョン・ドゥルーリ	Jennifer's Jig	J32 3C	Baldvan Reel (R32 4C)
3.	イアン・ボイド	The Meeting of the Waters	R48 3C	ジョン・ドゥルーリの
4.	ジェニー・ブラドリー	Nottingham Lace	R96 Sq	Ysobel (S32 3C)
5.	J・ボウイディクソン	Pinewoods Reel	R32 3C	ロイ・ゴールドリングの
6.	ブルース・フォーダイス	Seton's Ceilidh Band	R64 4C	Inchmickery (32J 5C) 入り

7. ビル・リトル	Bonnie Galloway	S40 4C
8. ヒュー・サーストン	Schiehallion	S64+R64
9. カローラ・フィッシャー	The Willbergs of Rechberg	S40 4C

Elspeth Gray's Reel ビデオ撮影 小杉由美子

「RSCDS 100 周年記念の Book はできるだけ多くの会員とともに作り上げたい」という本部の意向で、ダンスのビデオを東京ランチで撮ってほしいと担当者からメールがあったのは、4月12日。

協力者をどう集めるか、練習日の調整は、練習場所の予約はできるかなど委員会で検討して、一度は無理だろうと諦めかけたのですが、やはり鳥山さんのダンスは東京ランチでやりたい、いつも一緒に踊っている仲間撮影すれば、あらためて練習する必要もなく、練習場所の心配もないので実現できるのではないかと考え、船橋グループで引き受けることになりました。

グループに持ち帰り相談すると、「イベント大好き・なんでも楽しもう」という前向きな精神の持ち主の仲間たちの協力体制ができ、ビデオ作成の過程が見えてきました。週に2回の例会ごとに Elspeth Gray's Reel をみんなで踊って体になじませ、コスチュームを持ち寄り工夫して揃え、撮影会場を予約し、参加したい人は自分の予定を調整、6月26日の提出期限に向けて着々と準備が進んでいきます。

そこに本部から撮影の条件が届いて一抹の不安がよぎります。

- ・ 1セット8人で3回踊る（ロングワイズセットのプログラムがわかるように）
- ・ 音楽は本部から送られてくるものを使用
- ・ 画面は横向き、アスペクト比 16x9
- ・ 解像度は 1920x1080、MP4 または MOV 最新の携帯電話で撮影 OK
- ・ アングルは正面または斜め上から、動きがよく見えるように

ダンスに関しては心配なかったのですが携帯での撮影は不慣れで、まず携帯の性能を確認することから始め、高い位置から下に向けて撮影するにはどうすればいいか電気店に通って相談し機材をそろえ、とりあえずやってみることにしました。

本番は5月末、私の本拠地である四街道の撮影会場にグループ有志とダンスの作者であるチェアマン、境委員も集合し総勢15人で始まりました。ダンサー11人は入れ替わりながら踊り、音楽係、撮影係、監督係、それぞれが役割を果たし、何度も繰り返し踊って撮影終了。そのつど映像の確認はしましたが、小さな携帯の画面でよく見えず、映像はいくつもある中でその中から最良のものを選ぶことにしてその日は解散。

肩の荷を下ろした気になり帰って大きな画面で確認すると、照明が暗かったのかセットの位置が遠かったからか、ダンサーが画面の奥で動きが小さく映り、しかも少し



ぼけていて本部の要求通りの映像にはなっていないとガッカリ、チェアマンと相談の上再度撮影をすることになりました。

船橋グループで事情を説明して協力をお願いすると快く引き受けてくれて、できるだけ大勢集まれる日を決め船橋市の公民館を予約し、6月22日再トライ。今回は本部への提出期限まで間がないので、明るさやアングル、立ち位置など確認しながら2台の携帯で撮り、帰ってから鳥山・境両委員と相談して映像を選び25日に本部に送って、本部からの受領の連絡でプロジェクトは終了しました。

参加者からは充実した時間で楽しかった、協力できて嬉しかった、二度とない機会を与えてくれてありがとうなどの感想が寄せられ、苦勞したけれどやってよかったとあらためて感じています。

この活動を通して、本番に参加した仲間はもちろん、予定があって出られなかったり身体の具合で出るのを控え



たり、それぞれの事情はあるものの差し入れて励ましてくれたり、応援の言葉をラインで送ってくれるなど、グループをあげてのバックアップ体制は素晴らしいものでした。

ダンスの作者の鳥山さんと、ビデオ撮影にかかわってくれた全員、本部で Book 53 の作成に携わっている Angela Berry さん(2017年ランチの Weekend の講師)とスタッフの皆さんに感謝!

Balquidder Strathspey – RSCDS Book 24

その場所

Balquidder Strathspey は 18 世紀、デビッド・ラザフォードの第 3 ダンス集が原典の踊りで、そのタイトルは *Braes of Balquheder* であった。MacNab ダンス集の *Braes of Balquhidder* とまぎらわしいため、RSCDS は *Strathspey* を加えてタイトルを変えたと思われる。ロッホ・ローモンド&トロサックス国立公園のストラサイア村の北と西にある谷の名前は Balquhidder、スペリングが MacNab と同じなのには驚く。



Balquidder Church

ボルキダー教会



Rob Roy's grave - Alan Jamieson / CC BY-SA

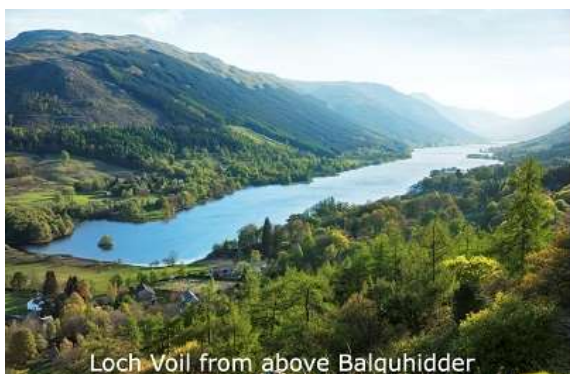
ロブ・ロイの墓

キングズハウス・ホテルはスチュアート王家の歴代の王が狩猟ロッジとして使用したところで、1590 年にさかのぼり、ボルキダーの始まりを示している。現存の建物中もっとも古い部分は 18 世紀後半に建てられ、私たちが踊っているダンスと同じころのものである。



キングズハウス・ホテル

主な集落のボルキダー村は、谷（グレン）から数マイル下流にあり、19 世紀に建てられた教会と昔の教会の遺跡がある。8 世紀または 9 世紀に聖アンガスによって建てられ、以来ここにある。教会の遺跡に隣接してスコットランドでもっとも悪名の高い人物の 1 人、ロブ・ロイ・マグレガーの墓があり、妻と 2 人の息子とともに眠っている。ロブ・ロイは最後の数年間を、グレンをさらに下ったインバーロッホラリグで過ごした。言うまでもなく、Book 26 の *Rob Roy MacGregor* の人物である。



Loch Voil from above Balquidder

ボルキダーの丘から見たロッホ・ボイル



Bridge over River Balvaig

ボルバン川にかかる橋

ロブ・ロイの家に行くには、すばらしいロツホ・ボイルの北側の道に沿ってブレース・オブ・ボルキダー（ボルキダーの丘）の斜面を通り、キングズハウスから10マイル（16 km）のインバーロツホラリグの駐車場に達する。ロブ・ロイの家はインバーロツホラリグ農場のグレンから少し下がったところにある。



Looking down Loch Voil from Balquhidder

ボルキダーからロツホ・ボイルをのぞむ

こんにち、ボルキダー・グレンは道ならぬ道、辺りなところと思われるかもしれない。しかし数世紀前、車が近い・遠い感覚を定める以前には、ボルキダーに通じる多くのルートがあった。インバーロツホラリグの丘から、北に向かってはクリアンラリッヒに通じ、西に向かうとロツホ・ローモンドの北端、グレン・ファロツホのインバーラナンに達していた（この道の支道はグレン・ガイルやロツホ・カトリンに向かっている）。インバーラナンからボルキダー教会までの西の道はかつて「コフィン・ロード（ひつぎの道）」と呼ばれていた。この道の最高地点は、Bealach nan Corp ビアラッハ・ナン・コープ（なきがら峠）の名がある。ロブ・ロイの生地グレン・ガイルから墓のあるインバーロツホラリグまで、歩けば10マイルだが、車では50マイル（80 km）になる。

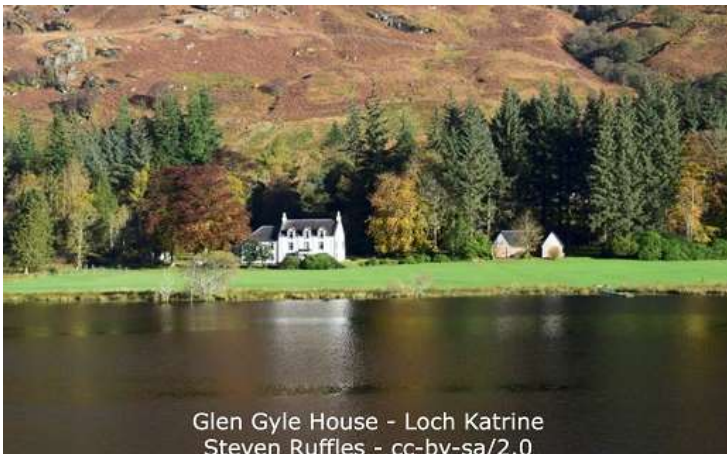
無法者あるいは民衆のヒーロー

「わが足は野のヒースの上であり、そしてわが名はマグレガー」

これはサー・ウォルター・スコットをして、ロブ・ロイに言わしめたことばである。このことばの力を理解するには、時代をさかのぼる必要がある。

ロブ・ロイが生まれる何年も前から、ジェームズ6世（1566-1623）はマグレガー一族に対して敵意を抱き、その名前の使用を公に禁止した。すなわち「完全に廃絶されるべきであり、一族の人間はその名を放棄し、別の名を名乗るべきである。一族およびその子孫も、以後、彼ら自身をグレガーまたはマグレガーと名乗るのは死の苦痛のもとにあると思わなければならない」。この通達は150年間有効であった。

このような背景の中で、ロブ・ロイは1671年にロツホ・カトリンの先端にあるグレン・ガイル・ハウスで生まれた。その通達に従い、彼は公式には母親の名前を使い、ロバート・キャンベルを名乗った。多くの人は無法者といい、また他の人は英雄と考えている。彼の生涯は確かに伝説であり、大衆文化においてロマンチックな人物となっている。



Glen Gyle House - Loch Katrine
Steven Ruffles - cc-by-sa/2.0

ロツホ・カトリンのグレン・ガイル・ハウス



Rob Roy - engraving circa 1820

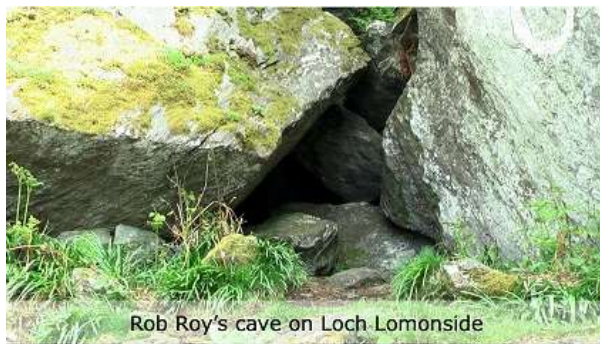
ロブ・ロイ - 1820年頃の銅版画

グレン・ガイルは西からの家畜移動の主要ルートの1つであり、ロブ・ロイの生業は牛売買で、彼が牛追いになったのは驚くべきことではない。彼はまた「みかじめ」行為ともいえる、あまり評判の良くない仕事にもいくらかかかわっていた。牛泥棒から牛を守る見返りに、金を徴収していた。当時のハイランドでは珍しいことではなく、ロブ・ロイはとくによい評判を得て、最終的には牛を保護する見張り人（ウォッチ）の頭になった。

余談ながらウォッチといえ、1725年にウェイド将軍は法と秩序を守るため、ハイランド全体をパトロールする民兵組織をつくる権限を与えられた。これら民兵組織は「ブラック・ウォッチ」と呼ばれ、任務の1つに「みかじめ」行為を終わらせることがあった。数年後、民兵組織は英国陸軍のブラック・ウォッチ連隊になった。

1712年、ロブ・ロイにとって情勢は不本意な方向に動き始めた。彼は飼育用の牛を買い、それを売って利益を得ようと、モントロズ公爵からかなりの金を借りた。ところが手下の1人がその金を持って行方をくらました。手下が強盗に襲われたのか、逃げたのかは謎である。モントロズ公爵はロブ・ロイを無法者と宣言し、返済の機会を与えることなく彼の土地を没収した。

法の外で暮らすようになったロブ・ロイは、母がキャンベル一族であったことからアーガイル公爵の庇護を受けた。この時期、彼はインバラリーに近いグレン・シャイラに家を持った。家の名残りは今でも見ることができる。以後のロブ・ロイに関連する「命知らず」の物語が、ロマンチックな民衆のヒーローのイメージとなって作られた。だが彼はモントロズ公爵の土地を定常的に襲撃し、モントロズ公爵の悩みの種であった。多くの人にとって、彼はロビン・フッドのような義賊と思われている。ロブ・ロイは1722年についに捕まったが、1727年に恩赦を与えられ、1734年に死ぬまでボルキダーのインバーロツホラリグに住んだ。(大岡越前守忠相 1677-1751 と同時代)。



John Campbell the Duke of Argyll negotiated an amnesty for Rob Roy and granted him permission to build a house in upper Glen Shira.

上：ロツホ・ローモンド湖岸のロブ・ロイのほら穴
下：グレン・シャイラのロブ・ロイの家の名残り

ロブ・ロイの投げた岩
アーガイル公ジョン・キャンベルはロブ・ロイのために恩赦を交渉し、グレン・シャイラの上流に家を建てる許可を与えた。

ロブ・ロイに関連する多くの物語や伝説があり、ロツホ・ローモンド、トロサククス、ボルキダーには彼にちなんで名付けられた洞窟や特徴ある風景が散在している。

モニュメント

スターリング市のアルバート・ホール外側には印象的で有名なロブ・ロイ・マグレガーの彫像がある。スターリングシャーの森の中に、見つけるのがむずかしいけれども、別の珍しいモニュメントがある。ロブ・ロイではなく、マグレガー一族のものである。18世紀後半に第18代クラン・グレガーの首長、サー・ジョン・マリー・マグレガーはカーランダーとドゥーンの間を流れるティース川の南、ランリック・エステートを購入した。はっきりした理由のないまま、

サー・マグレガーは1800年から1825年の間にマグレガー一族の記念碑を建てた。それは虚栄心にもとづくプロジェクトだったのか、それともマグレガー禁止法の廃止を遅ればせながら祝うものであったのか？



アルバート・ホールのロブ・ロイの彫像



マグレガー一族のモニュメント

モニュメントはエステート内をたどり、木々の間を透かしたりして見つけるのがかなりトリッキーである。木々に囲まれているため、その大きさがよくわからないが、高さ18メートルの砂岩の構造物で、下半分は木の幹のようである。上半分は3本の柱で支えられた石造りの大きな王冠があり、その上にセンター柱が立っている。こんにちモニュメントは放置されており、危険建造物となっている。

このほかにもロブ・ロイやマグレガー一族の彫像やモニュメントがあるが、皆さんはその所在を知っているだろうか？

スコットランドの歴史で、この日は from Dance Scottish at Home, 21 August 2020

8月15日は、850年以上にわたりスコットランド史の中でよく知られている日である。この日はウォルター・スコットの誕生（1771年）、スクーンにおけるマクベスの戴冠（1040年）、マルカム・カンモアとマクベスの戦いでマクベスの戦死（1059年）、スコット記念塔建設における最初の礎石の敷設（1840年）があった。今週のDSAHAはさらに、8月に起こった出来事を述べる。



1766年8月16日（翌年田沼意次が10代将軍家治の側用人となり、20年間の田沼時代が始まる）

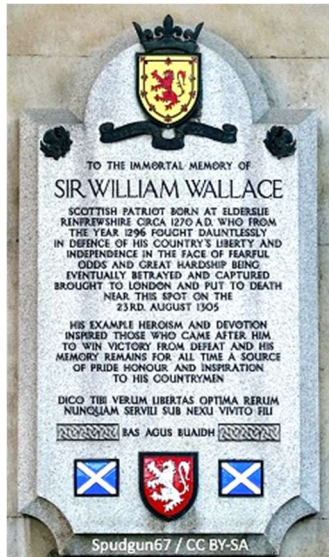
ネアン男爵夫人、カロライナ・オリファントが生まれた。「ストラサーン Strathearn の花」と呼ばれた若く美しい女性で、民謡の収集者・作詞家でもあり、ロバート・バーンズと同じくらい影響力があったと言われている。カロライナは歌集をペンネームで出版したが、生涯に作詞した約90の歌謡の著作権を主張しなかった。彼女の作品には、The Rowan Tree、Charlie is My Darling、Will Ye No' Come Back Again? などがあり、いずれもエア系ストラスペイの第2曲、第3曲として諸録音に使われている。The Laird o' Cockpen は Lady Catherine Bruce's Reel のオリジナル曲に指定されている。

カロライナはジャコバイト派の家系の娘であり、手紙小説作家、作詞家であったが、彼女が作り、いまもお人々に愛されている曲の数々は、当初ロバート・バーンズが書いたものと信じられていた。1845年の彼女の死後、妹のマーガレットがカロライナの書いた全歌曲を含む本「ストラサーンの抒情詩」の序文でこれを述べ、カロライナの文学的才能が一般に知られるようになった。

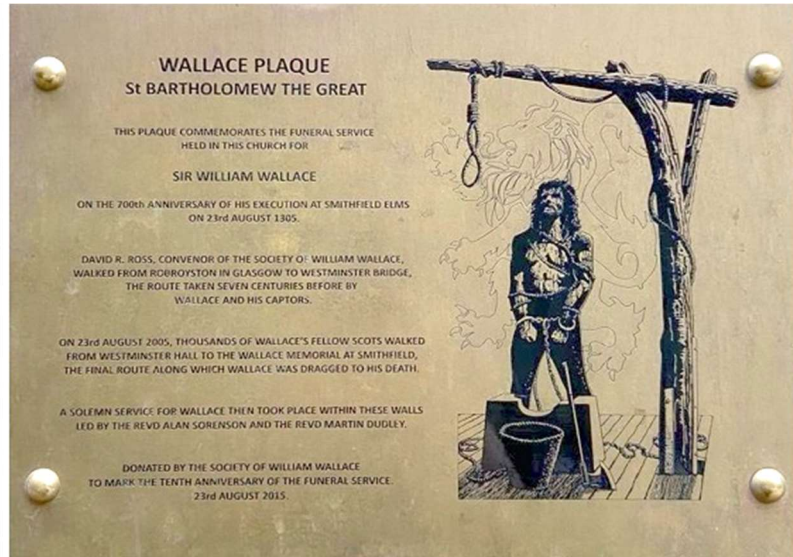
序文にはカロライナの言葉として『私の姪と私は両方とも、私の愛する妹が、さまざまな曲の美しい言葉の著者として私の名前を出すことを、少しも考えたり望んだりしていません。しかし、妹が私の名を記し、知らせることは何も悪いことではないと思っています』が述べられている。

1305年8月23日（この年、足利高氏が生まれた。後醍醐天皇から「尊氏」の名を賜ったのは1333年）

13～14世紀、イングランドからの解放戦争でスコットランドの中心人物であったウィリアム・ウォーレスがこの日、ロンドンで処刑された。ウォーレスはスコットランドのもっとも偉大な英雄の1人として記憶されており、スコットランド軍を率いてイングランドのエドワード1世に対抗して要塞を攻撃し、イングランド北部に侵攻し、スターリング城を占拠した。



William Wallace memorial
St Bartholomew's Hospital



William Wallace memorial plaque - St Bartholomew's Church

聖バーソロミュー病院のウォーレス・メモリアル

聖バーソロミュー教会の記念銘版

ウォーレスは有能な指導者であり、スターリング・ブリッジの戦いに続いて1297年にスコットランドをイングランドから短期間解放することに成功し、スコットランドの守護者と宣言され、騎士に叙せられた。だが戦いはすぐに再開し、ウォーレスは守護者の役割を辞任し、ロバート・ザ・ブルースとジョン・カミンが1298年に共同守護者に任命された。スコットランドの貴族たちは1304年に正式にエドワード1世に服し、ロバート・ザ・ブルースは叛旗をひるがえす機会をうかがっていた。

ウィリアム・ウォーレスは孤立無援だったがエドワードに服することを拒絶し、グラスゴーの近郊で捕えられた。ロンドンに送られて絞首刑に処せられ、遺体は四つ裂きにされた。エドワード1世は、王権に反するとどうなるかの見せしめとしてウォーレスを使った。ロンドン・ブリッジで首を槍に掲げ、四肢それぞれをニューカッスル、ベリク、スターリング、パースで晒した。こんにち、処刑場に近いうミスフィールドの聖バーソロミュー病院の外壁に銘版が掲げられている。[オーストラリア育ちのメル・ギブソンが主演・監督しアカデミー作品賞や監督賞を得た『ブレイブハート』(1995)は史実と大いに異なるが、スコットランド人は涙しながら今でもよく見るという]

1947年（昭和22年）8月24日 第1回エジンバラ・フェスティバルが開催された。第2次大戦が終わり、グランドボーン音楽祭（イングランド東サセックス州）のゼネラル・マネジャー、ルドルフ・ビングは政治的・文化的境界を乗り越え、人々を和解させることができるフェスティバルを開催しようと考えた。エジンバラ市議会、ブリティッシュ・カウンシルとともにビングは当初のアイデアに取り組み、戦後に起こったチャレンジ精神に邪魔立てしないことを決めた。

フェスティバルは一般の人たちの想像力をかき立て、ボランティアがイベント運営の不可欠な部分となった。さらに重要であったのは、石炭の供給であった。燃料・電力大臣は就任式でエジンバラ城の夜間照明中止を述べたが、エジンバラの人たちは「そりゃないよ」の気持であった。石炭を供与するよう、大臣に手紙と電報を爆弾のように送りつけ、大臣は屈服せざるを得なかった。エジンバラの民間石炭供給を使い、4晩にわたり城はライトアップされた。

それ以来、フェスティバルは大きく成長した。招いてもいないのに8つの演劇グループがやってきて1947年8月に勝手に公演を始めた。これがフェスティバル・フリッジ（へり、周辺）の端緒となった。ドキュメンタリー、国際映画フェスティバル、ジャズ&ブルース・フェスティバル、書籍フェスティバルのジャンルはフェスティバルの一部とな

り、パッケージになっている。2020 年はオンラインで開催された。



Edinburgh Castle at night

夜のエジンバラ城

新 Book・CD 紹介

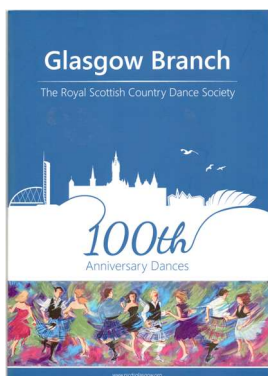
Tom Toriyama

ひとりの1ポンド¥120がいまは¥200、ブックは10ポンドが平均なので、¥1,200で買ったブックがいまでは¥2,000もする。このような円安ポンド高ではご紹介もはばかれるが、あえて2つの品目について述べる。

Glasgow Branch 100th Anniversary Dances … ブックのみ

- | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|--|
| 1. Centenary Jig (8x32J) | 6. Jordanhill (8x32R) | 10. A Glasgow Welcome (8x32J) |
| 2. Seeing Stars (5x40R) | 7. Manual Memories (8x32J) | 11. A Hundred Years Since (8x32R) |
| 3. Compliments to Glasgow (4x32S) | 8. A Change of Pace (2x32S+2x32R) | 12. In Celebration of Glasgow Branch (4x32J) |
| 4. The Faerie Pools (3x48R) | 9. The Athenaeum (3x32S) | 13. The Tall Ship 'Glenlee' (8x32S) |
| 5. Glasgow City Strathspey (8x32S) | | |

ソサエティが創立された1923年、グラスゴーでミス・ミリガンのクラスがはじまったが、それがソサエティのクラスなのかグラスゴー・ブランチのクラスなのか、判然としない状態だった。企画の立案・実施も同様であった。グラスゴー・ブランチはこれをブランチ発足の年とし、2023年を100周年としている。会員から提出された37ダンスを番号付与のみで実際に



試してみて、選ばれた13ダンスをまとめたのがこのブックである。

44ページのブック本文中、10ページがグラスゴー・ブランチの略史に充てられており、初期からコロナ・ウイルスによる行事中断までが述べられている。本部マガジンでは、エジンバラからの視点で歴史が書かれている記事が多いように思えるが、このブックではグラスゴーはこう考えるという匂いで満ちている（参考邦訳をお渡し時に添付）。

ダンス内容は、いくらかトリッキーなダンスもある

が、ほとんどが既存のフォーメーション、ムーブメントで作られている。近年、2-1-3のプログレッションとするため、とってつけたようなつじつま合わせのダンスが多い。このブックにはそのようなケレンがなく、好感が持てる。近ごろはやりのcorner pass and turnを使っているダンスもない。

*Seeing Stars*は5-coupleダンスで、5th coupleはsetting stepを1回やるだけで残りは他のカップルを見ているだけ、というルール。*Compliments to Glasgow*は最初の8小節が「100」を表すジョン・ジョンストン作の素直なダンスである。*Glasgow City Strathspey*は1stカップルと1stコーナーがセットしたら、1stカップルはキャスト・バックという、*Best Set in the Hall (Book 47)*のストラスペイ版である。*Jordanhill*にはLa Girandole（ラ・ジランドール。風ぐるまの意らしい）というジム・レイが考えたフォーメーションが出てくる。*The Tall Ship "Glenlee"*の3カップルによるエスパニョール、これがこのブックの中で一番手こずるフォーメーションであろう。1回でマスターさせようとせず、2,3回かけて練習したほうがよいと思う。キース・ローズ作のダイヤグラムがすべてのダンスにあり、またすべて楽譜つきである。いまのところ、付随するCDの出版は予定されていないとのこと。★★★☆☆【注文略号：グラスゴー・ブック】

In Honour of Volume 1 and 2 … CDつきブックレット

By Ewan Galloway

Volume 1

1. In Honour of Ewan Galloway (5x32R)
2. The Markinch Mars Bar King (8x32J)
3. Robbie & Esmá Shepherd's Strathspey (8x32S)
4. Meet, Greet and Repeat (8x32J)
5. To Absent Friends (2x32S + 2x32J/R, SQ)

Volume 2

1. In Honour of Derek Hamilton (3x32R)
2. Sarah's Stamp Party (4x32J)
3. The Dundonian Entertainer (3x32S)
4. The Elginhaugh Rant (4x48R)
5. The Ogilvys of Winton (4x32S)

ブランチレターNo.121でご紹介した『楽団ひとり』ユーアン・ガロウエイ作のCDつきブックレットの第2、第3弾である。In Honour ofは『…に敬意を表して』の意味。前回のShip Ahoy!はユーアン作のダンスばかりで、音楽はよいがダンス内容はいまいちというレベルであった。今回の2種のブックレット、ダンスはほとんどユーアン以外の方が作っており、そのため面白い内容でお勧めできる。このブックレットもすべてキース・ローズ作のダイアグラムがついている。

In Honour of Ewan Galloway はトップの3カップルがset and linkを踊っているときにボトムの2カップルはallemandeを同時にやるという5カップルダンス。*The Markinch Mars Bar King* はマーキンチ町のマーズ棒(チョコレート棒)の王という意味。ユーアンの父のことで、踊りは3カップルのchain progressionがある。*To Absent Friends* はスクエアセットのメドレーで、クィック部のリズムにリールとジグの二通りが録音されており、クラス当日好みの方をかけてくれ、という趣旨であろう。*In Honour of Derek Hamilton* は3カップル・セットのリールで、3hands acrossのちchasingという動きがおもしろい。

音楽は、マガジン36号のユーアン・ガロウエイCDの批評にある通りで、早すぎず遅すぎず、一貫している。代替曲はStrawberries Galore、Rowan Tree、Oor Ain Firesideなど聞きなれた曲が多く、安心して踊れる。★★★【注文略号：ガロウエイ・ブックレット(2冊1組)】

* * * * *

ご注文は注文略号、数量、金額を明記のうえ、
郵便振替 00240-0-63517 東京ブランチ
でお申し込みください(送料込み)。

グラスゴー・ブック ¥3,300

ガロウエイ・ブックレット ¥5,100

ショップ担当 大野宏子 042-576-9587

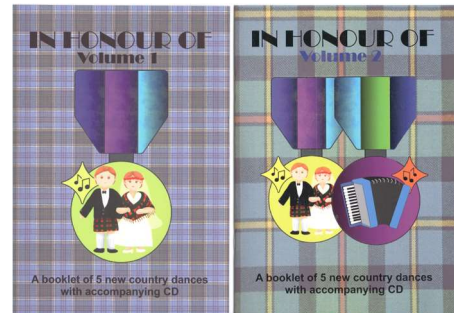
締切り 8月10日(水)

(締切りを過ぎての送金をご遠慮ください)

お渡し予定 9月中旬

Book 53、本は105冊・CDは62枚

みなさんからBook 53のブックとCDの申し込みをいただき、6月下旬、本部に注文しました。ここで不思議に思ったのはブック105冊、CD62枚というひどいアンバランスです。差のCD43枚、申し込まなかった方は、はたしてどの音楽を使ってBook 53のダンスを踊るのでしょうか？ クラス・ミュージシャンがいる？ ダンサーでなくミュージシャンだから？ 手持ちのCDから適当なトラックを選んで使う？ 100周年記念なのでブックだけほしい？ そうではなく、オリジナルCDをどなたかに複製してもらい、白レーベルのCDを使うのではないのでしょうか。ブックはカラーページもあってコピーするのに手間がかかりますが、CDは百円もあればパソコンで簡単にコピーできる時代、その風潮が現れています。



Volume 1

Volume 2

お詫びとお願い

1. 前号のブランチレターでご紹介したプレトリア・ブランチのFields of Goldは発送元の手違いにより、お渡しが遅れ、申しわけありません(10日間の航空便のところ、60日の船便で英国発送)。近々みなさんにお届けできる見込みです。これが最後になるよう、十分気を付けます。
2. 英国内のインフレ・増ページブック・ポンド価の急な上昇・ダブルCD化により、Book 53とCDの本部販売価格が、想定を大幅に上回りました。たいへん申しわけありませんが、ブックで¥500/冊、CDで¥1,500/枚の追加ご送金をお願いしなければなりません。円価算出に甘さのあったことを深く反省しています。心苦しい次第ですが、別途お送りする「お詫びと追加ご送金のお願い」に記載した金額のご送金をお願い申し上げます。

絶版となったCDを、持っている人から借りて複製するくらいは許されるでしょう。ダンス会の進行をスムーズにするため、いろいろなCDからピックアップして1枚のCDにまとめるのも、(1回使ったら、あとはお蔵入りとなるため) やむを得ないでしょう。ですが、安く上げるために発売されたばかりのCDをコピーし他人に渡すのは、作曲者・演奏者・発売者の権利を侵害し、それら著作権者の得られるであろう利益を損ねる悪意行為と言わねばなりません。

このようなことが続けば、『東京海賊版ブランチ』という悪評が本部や世界に浸透することになります。「コピーしてあげるから、あなたはCDを買わなくていい」と、間違った親分気質を發揮していないでしょうか。グループ・リーダーに道義心(モラル)はないのか、と疑いたくなります。みなさん苦勞してとった指導者資格ですが、指導者はなおいっそう、道義から外れることはやらない、という誇りをずっと持ち続けていただきたいと思います。どこか後ろめたい気持ちで白レーベルCDを使うよりも、気兼ねなくオリジナルCDをかけたほうがよいではありませんか。

「バレないから万引きしてもいいんだ」という人がいないように、コピーCDを他人に渡す人はいないとして、いまままでブランチショップでは「コピー禁止」を明言することはありませんでした。しかし、きちんとお金を払ってCDを購入した人がバカをみる東京ブランチであってはなりません。コピー行為がこれ以上続かないよう、ブックとCDが同時発売される場合には、今後その2つをセットでご案内するかもしれません。〔トム鳥山〕

50年前のヒュー・フォスの提言

この100周年の年に、祝賀が本格化する中、ヒュー・フォス(1902-1971)による1973年の出版物「スコティッシュ・カントリー・ダンダンシングの発展に関するノート」、特に「創立50周年を迎えたソサエティの未来」と題された抜粋を再掲載することが適切であるように思われる。ヒュー・フォスはかつてロンドン・ブランチのチェアマンを務め、機関紙The Reelの初代編集長であった。一部の表現はいま、少し古めかしく思えるかもしれない。

カントリー・ダンシングの未来への期待をいくつか述べたい。私は多くの人がそれらの少なくともいくつかを共有することを期待している。まず、ソサエティが末長く繁栄することを願っている。ちなみに、スコティッシュ・カントリー・ダンシングの黄金時代はいま現在であると思っている。

多くの会員の思いは、ソサエティのミス・ミリガンか、ミス・ミリガンのソサエティかということである。彼女は指揮者、首席インストラクター、旅するセールスウーマンの役割を兼ね備えている。彼女はスコットランドとイングランド中でカントリー・ダンシングを個人でセールスしており、最近アメリカを訪れたばかりである。ソサエティがいまあるのは、彼女がいたからであると思う。ミス・ミリガンについての私の唯一の希望は、彼女が永遠に生き続けることである。

しかし、人柄から離れて流行の風向きなどを見ると、ソサエティがテクニックを強調しすぎ、ダンスを非常に堅苦しくて難しいものにしたため、以前(この場合、

1890年から1920年を意味する)の楽しい雰囲気がなくなったと不平を言う人もいる。言い換えれば、そういった人たちは、ソサエティはベストのダンスを選ばず、次善のダンスを選んだと不平を言っているのである。みなさんがベストのダンスを望むなら、ソサエティはそれらを持っていたはずである。

ソサエティは、踊る前に、すべてのダンサーが完璧なテクニックを持つと言っていない。参加する最初のクラスで、誰もがダンスを楽しむことができるよう、ステップを十分に理解するのはとても簡単である。SCDはメヌエットと異なり、ビギナーズは最初からステップを勉強する必要はない。

ソサエティが強調しているのは、ダンスのソーシャル・スピリットである。それはパートナーを見ずに踊ることを望んでいない。また、優雅でなく、不愉快なジェスチャーも好まれない。私は、ダンスがソーシャルで人気のあるものであり続けることを願っている。

選択できるダンス数が非常に多い場合、ダンシングに漂うのはMCがアナウンスしたフィギュアの羅列を追うだけ(ソーシャル・スピリットがなくなる)という危険性があるかもしれない。そんなのを見たくはないが、まだその段階には至っていないと思う。今日、私たちは時代の異なる沢山のフィギュア、しかも多数のバリエーションを踊っている。であるから、ソサエティがBook 17, 18, 19で過去のより独特なフィギュアをさらい上げたように、新しいダンスで新しいフィギュアが創造されることを願っている...新しいフィギュアは古いものから生み出されるのである。"The Reel", No.324, June 2023, RSCDS London Branch

関西ホワイトヘザーダンサーズ
年次パーティー
10月15日(日) 10:30-4:00
神戸クラブ
¥10,000
問合せ: 尾崎一恵
ko-petitdiable@maia.eonet.ne.jp

東京スコットランドダンスを楽しむ会
Year-End Ball
12月10日(日) 1:00-5:00
主婦会館プラザエフ
¥8,000
問合せ: 若松陽子
ywk@ozzio.jp